小学生保護者対象家庭教育通信　第三信

のびる

令和７年１０月２４日
真岡市教育委員会

「ありがとう」が紡ぐ、親子のぬくもり
～家庭で育てる人権～

真岡市教育委員会　学校教育課
指導主事　鶴貝　昌弘　氏

はじめに

　子育てをしていると、「イライラする瞬間」って本当にたくさんあるものです。朝の忙しい時間に筆箱が見つからない、夜寝る前に宿題が終わっていない、お手伝いを頼んでも「あとで～。」と聞いてくれない……。気がつけば「早くしなさい！」「なんでやらないの！」と声を荒げてしまうこともあります。そんなとき、あとから「もう少し落ち着いて話せばよかったな。」と胸がチクっと痛むのも、子育てに携わる多くのお母さん、お父さんが経験していることではないでしょうか。

　「人権」と聞くと、少し堅苦しく感じるかもしれません。ですが、日々の生活の中にある「小さな優しさ」や「思いやり」も立派な人権の尊重につながっています。その入り口にあるのが、「ありがとう」という感謝の言葉です。

失敗よりも気持ちを大切に

　先日、あるお母さんがこんな話をしてくれました。

　夕食の片付けをしていたとき、小学二年生の息子さんが食器を流しまで運んでくれたそうです。でも、食器の持ち方が不安定で、カチャカチャ音を立てていて、お母さんは思わず「危ない！落としちゃうでしょ！」と強い言い方をしてしまいました。すると息子さんはしょんぼりとした表情に……。そのあと、「本当はありがとうって言えばよかったな。」と反省したそうです。

　よく考えてみると、子どもは完璧にできなくても「やってみよう」と挑戦しているのです。その気持ちをまず受け止めて「手伝ってくれてありがとう。」と伝えるだけで、子どもの心は温かく満たされていきます。「人権」とは、一人ひとりの存在を認め、尊重すること。親子のやりとりの中での「ありがとう」は、その第一歩なのではないでしょうか。

大内中央小　６年
児童

子どもからの「ありがとう」

　子どもから「ありがとう」をもらうこともあります。例えば、仕事から疲れて帰ってきたときに、「お仕事お疲れさま。いつもありがとう！」と笑顔で言われると、どんなに疲れていても心が軽くなるものです。小さな「ありがとう」が、大きな支えとなり、親も子どもも、その言葉でお互いを認め合うことができます。

　もちろん、毎日感謝の言葉ばかりを交わすのは簡単ではありません。人は誰でも疲れると余裕を失い、イライラした気持ちをぶつけてしまうことがあります。それも自然なことです。大切なのは、あとからでも「さっきは怒っちゃってごめんね。」と素直に伝えること。謝る姿を見せることも、子どもにとっては大事な学びになります。

失敗をしても関係を修復できることを、親の姿から学んでいくのです。

「ありがとう」や「ごめんね」を家庭の中で大切にすることは、子どもの人権感覚を育む土台にもなります。自分が大切にされていると感じる子は、友達にも優しく接することができます。反対に、自分の気持ちを認めてもらえない体験ばかりだと、人を思いやる気持ちが育ちにくくなることもあるのです。

イライラしてしまったときに、深呼吸をひとつ。そして「ありがとう」を探す。お手伝いをしてくれたこと、元気に学校へ行ってくれること、一緒に食卓を囲めること。そんな日常のありがたさに目を向けてみませんか？

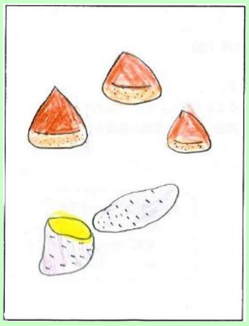
ＳＮＳの時代に

最近では、子どもたちも早い段階からＳＮＳやオンラインゲームなどを通じて他者と関わるようになっています。そこで大切になるのも、やはり「ありがとう」という気持ちです。

ＳＮＳでは、顔が見えない分、言葉だけが相手に届きます。ちょっとした一言が相手を励ますこともあれば、傷つけてしまうこともあります。だからこそ、「いいね」や「ありがとう」といった温かい言葉を意識的に伝えることが、相手の尊重につながります。

一方で、イライラした気持ちのまま発信してしまうと、取り返しのつかないトラブルになることもあります。大人でも感情的になって後悔することがあるように、子どもにとって気持ちを抑えることは、さらに難しいことです。だからこそ、家庭の中で「イライラしたときは一度立ち止まって深呼吸」「相手を思いやる言葉を選ぶ」という習慣を親子で共有できると安心です。

ＳＮＳの世界でも、「ありがとう」という言葉は人をつなげ、温かい関係を広げていきます。子どもたちが安心してインターネットを使うためにも、家庭で日常的に「ありがとう」を交わすことが、そのままオンラインでの人権を大切にする力へとつながっていくのです。



真岡東小　５年
児童

おわりに

人権を守るというと大げさに聞こえるかもしれませんが、その出発点は、身近な人を大事に思うことにあります。子どもを一人の人として尊重し、感謝の言葉をかけ合うこと。それが家庭のぬくもりを育み、社会全体の人権を守ることにもつながっていくのです。

どうしてもイライラしてしまうときは、「ありがとう」という言葉を心のポケットにしまっておきましょう。そして、ふとした瞬間に取り出して、子どもに手渡してみてください。きっと親子の関係が、ほんの少しやさしく、温かく変わっていくはずです。

こちらの家庭教育通信をお読みいただいたご感想をお聞かせください！

真岡市では家庭教育について情報を発信しています！ご覧いただき、ぜひご活用ください。

ログイン不要で送信できるぴょん！

感想をお待ちしております♪